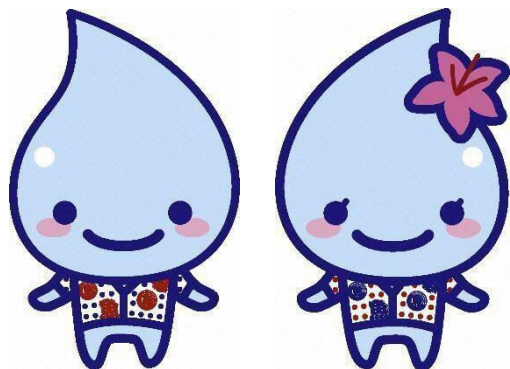


焼津市水道事業ビジョン等検討委員会

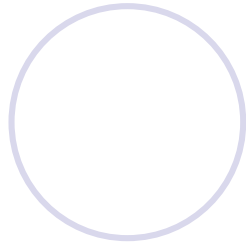
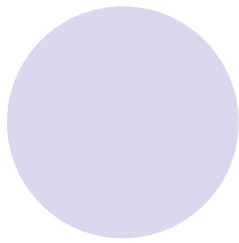
第1回

焼津の
すいどう

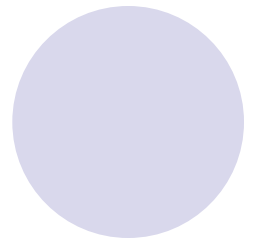
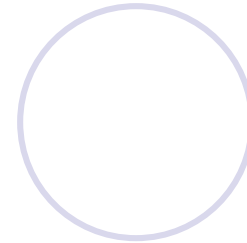
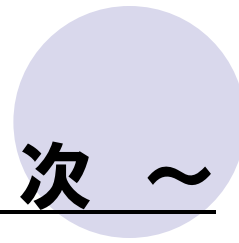


日時 令和6年10月25日(金)午後2時

場所 焼津市水道庁舎



～ 目 次 ～

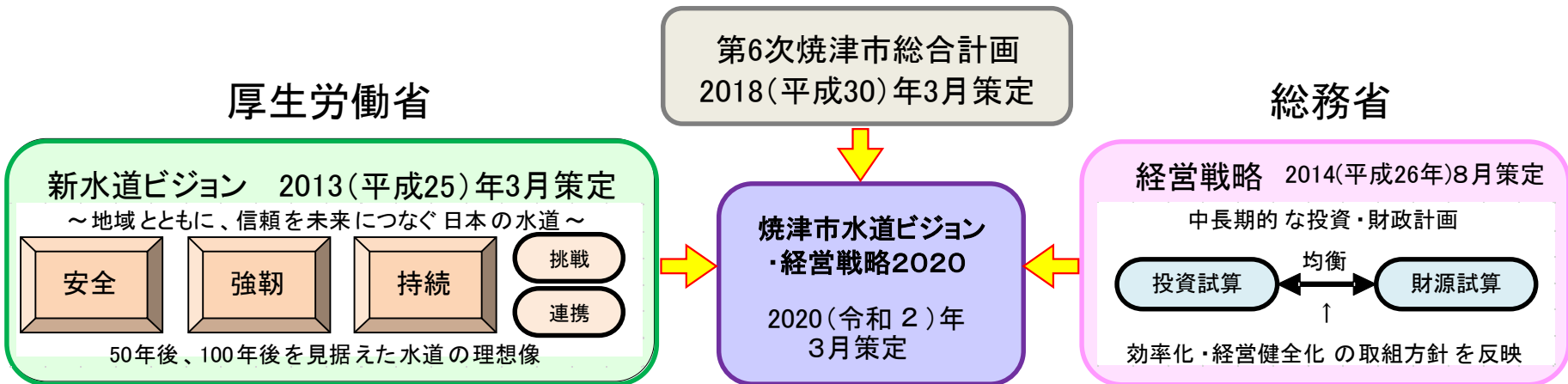
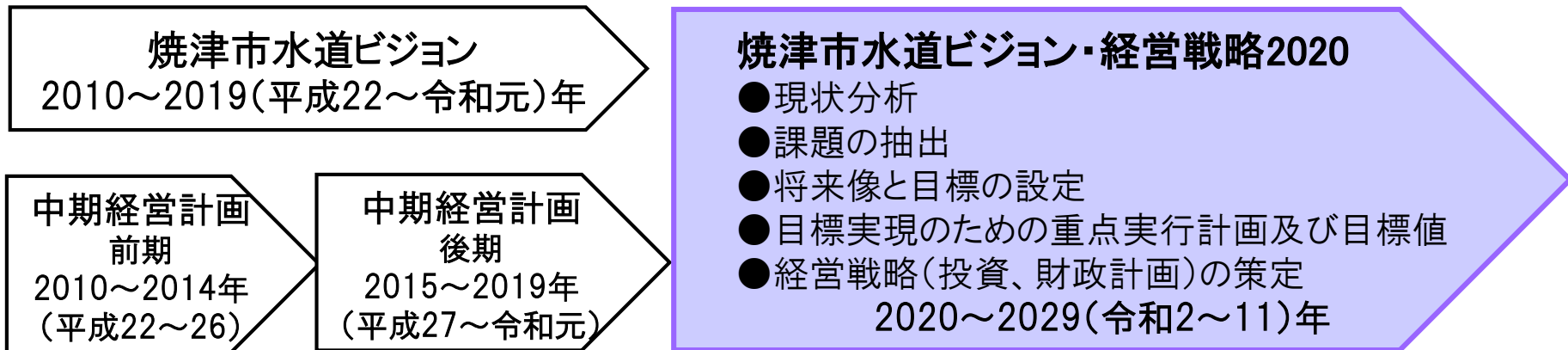


- 1. 焼津市水道ビジョン・経営戦略2020の概要**
- 2. 水需要の推移**
- 3. 令和5年度目標達成状況**
- 4. 後期計画の見直し方針**
- 5. 投資財政計画の見通し**

1. 焼津市水道ビジョン・経営戦略2020について

1-1. 焼津市水道ビジョン・経営戦略2020の概要

焼津市水道事業の計画



<水道事業を取り巻く状況の変化>

- ・人口減少社会の到来
- ・東日本大震災の経験

基本理念：おいしい水を 未来へつなぐ やいづの水道

安全

基本方針：安全でおいしい水の供給

- 基本目標①水質の適正管理
②水源の維持

強靱

基本方針：災害に強い水道の構築

- 基本目標①施設の更新
②管路の耐震化
③危機管理対策の強化

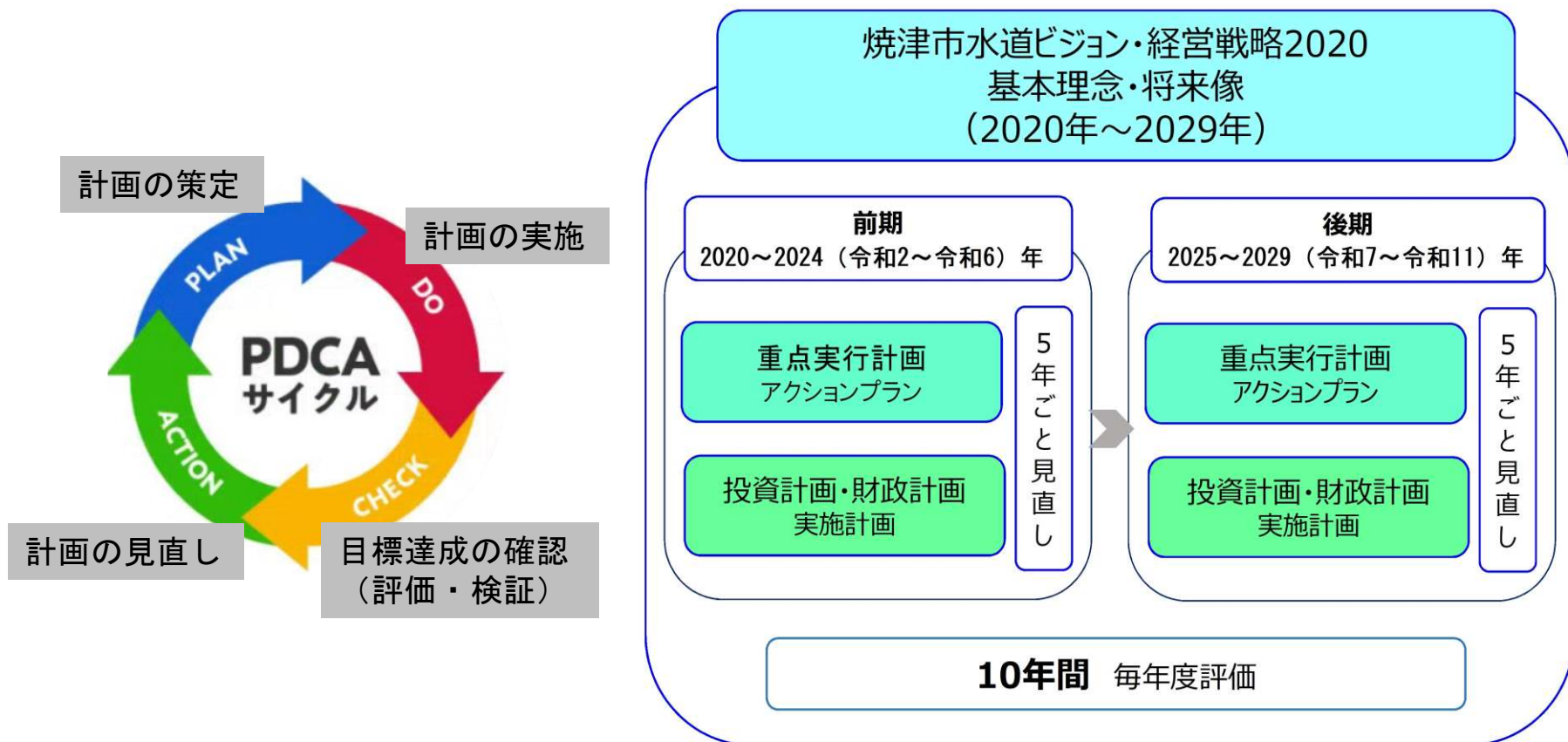
持続

基本方針：未来につながる健全な事業経営

- 基本目標①経営基盤の強化
②業務の効率化
③お客さまとのコミュニケーションの推進
④環境に配慮した事業の運営

1-2. 計画的なフォローアップ

重点実行計画を着実に実施していくためには、計画の進捗管理が重要となるため、毎年、PDCAサイクルを用いて、目標値に対する評価を行います



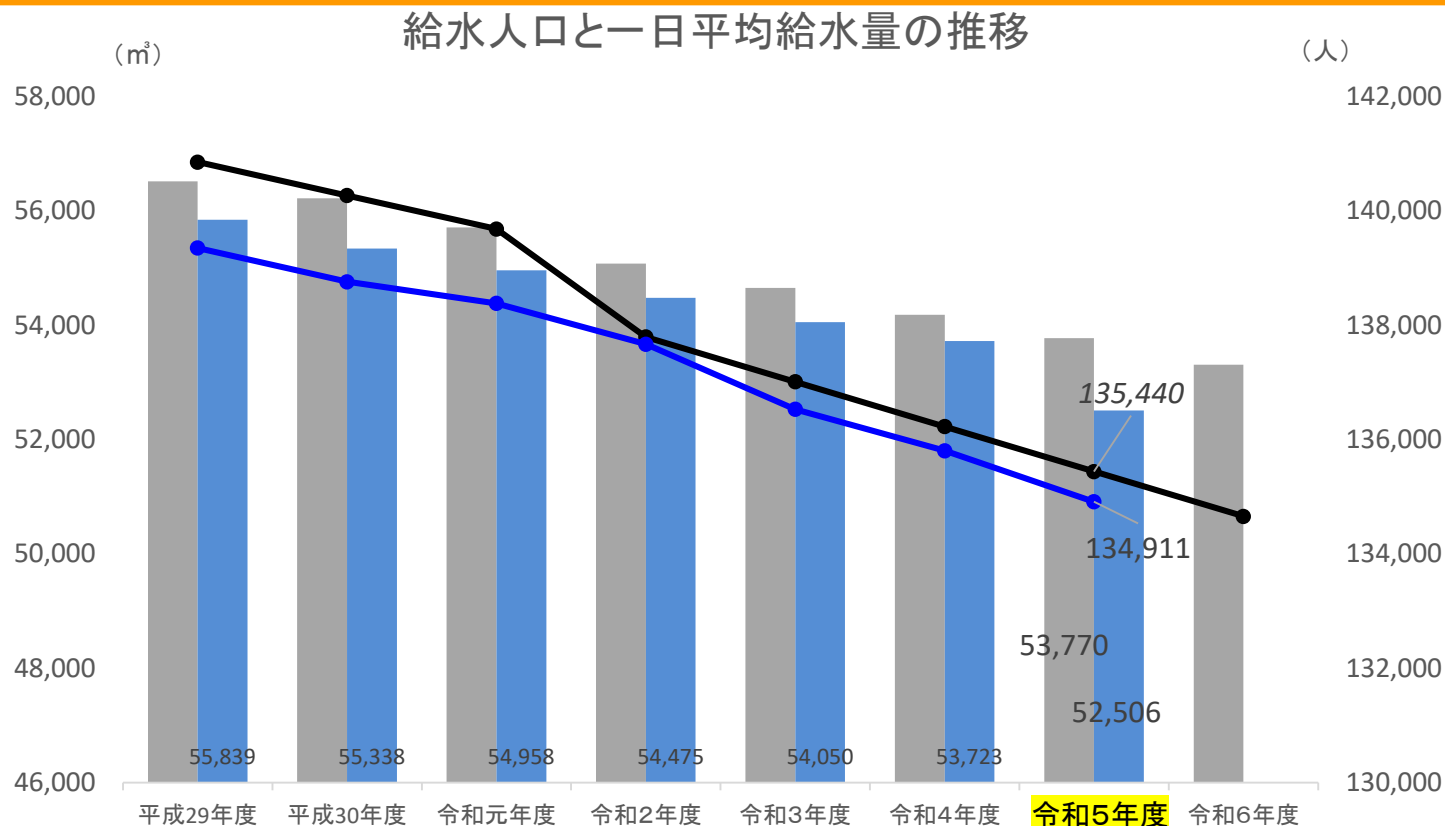
検討委員会では、毎年の目標達成の確認(評価・検証)と、5年ごと経営戦略の見直しについて協議していただきます。

2. 水需要の推移

2-1. 給水人口と給水量

給水人口は計画を僅かに下回った。

一日平均給水量は、給水人口の減少に加え、使用者の節水意識の高まりや節水機器の普及・高機能化が影響し、計画値を下回った。



■ 一日平均給水量 (m³) 計画

■ 一日平均給水量 (m³) 決算

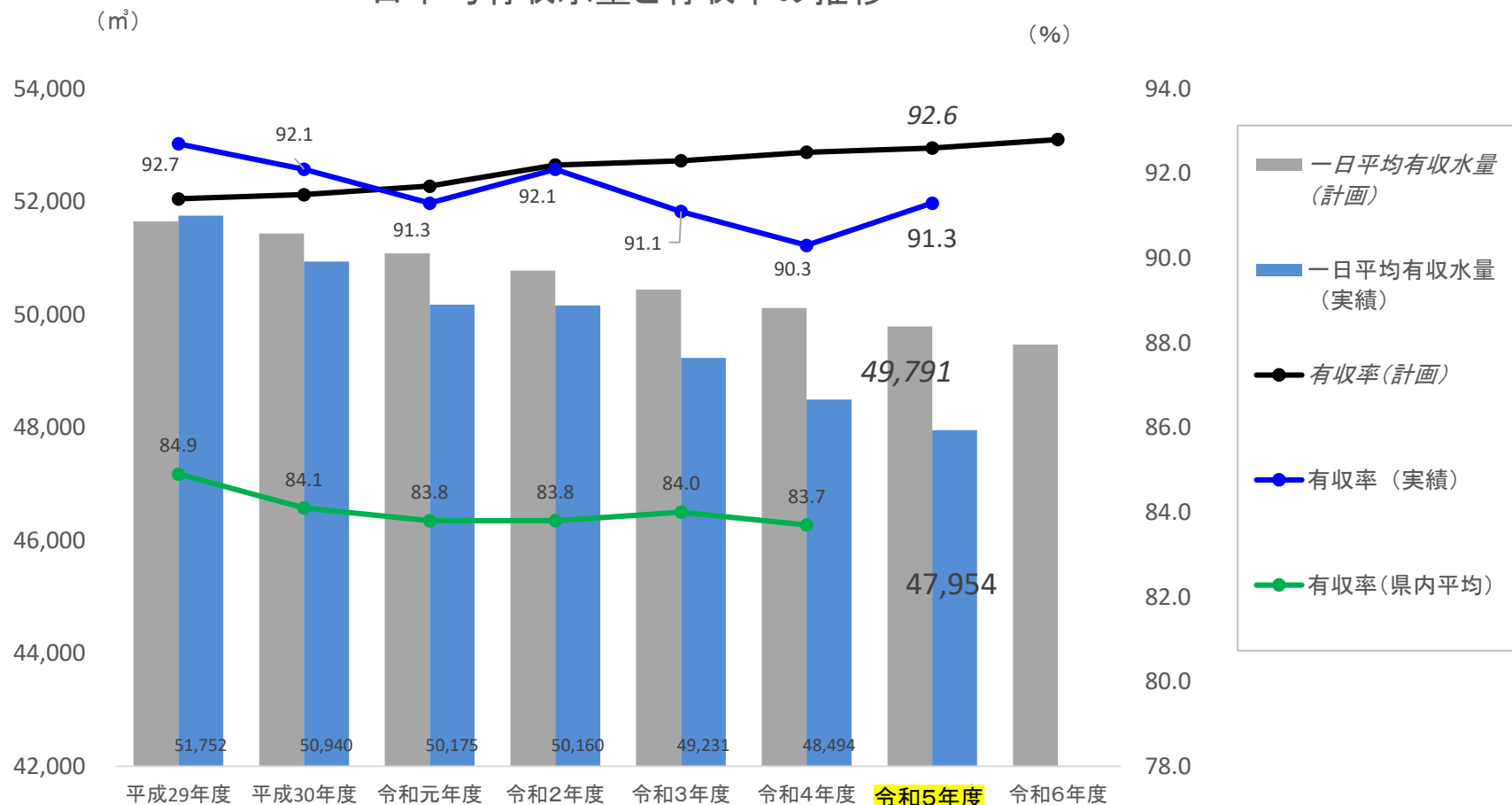
● 給水人口 (人) 計画

● 給水人口 (人) 決算

2-2.有収水量と有収率

給水量の減少に伴い、有収水量(料金徴収の対象となった水量)は計画値を3.7%下回った。有収率は、前年度比1.0ポイント増の91.3%となったが、計画値を1.3ポイント下回った。

一日平均有収水量と有収率の推移

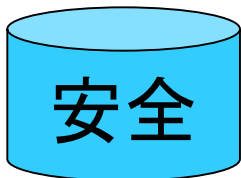


※有収率(県内平均)は、「静岡県の水道の現況」(令和6年4月発行)より

3. 令和5年度目標達成状況

3-1. 重点実行計画の目標達成状況

3-1-1. 安全



基本方針：安全でおいしい水の供給

基本目標 1：水質の適正管理

実現施策	水源から給水までの水質管理の徹底	受水の水質管理
重点実行計画	<ul style="list-style-type: none">水質検査計画に基づく水質検査の継続実施鉛製給水管の水質検査の継続、使用者への広報	受水の水質を注視、日常の水質検査の実施

基本目標 2：水源の維持

実現施策	水源井戸の維持・管理	水源井戸の定期的な調査	地下水の動向把握
重点実行計画	水源井戸の維持・管理の継続実施	水源井戸の修繕計画の作成	地下水利用団体の会議等への参加

基本目標 1 : 水質の適正管理

	評価指標	R5年度目標		R5年度実績		評価
1	水質検査計画の策定	1	回/年	1	回/年	○
2	水質検査計画の実施率	100	%/年	100	%/年	○
3	鉛製給水管の水質検査	4箇所×2	回/年	4箇所×2	回/年	○
4	鉛製給水管使用者への広報(対象者)	1	回/年	1	回/年	○
5	大井川広域水道企業団の水質確認	1	回/月	1	回/月	○
6	日常の水質確認	1	回/日	1	回/日	○

- 1 水道法に基づき、水質検査計画を策定した。
- 2 水質検査計画に基づき全ての検査を実施し、水質が適正であることを確認した。
- 3 市内4箇所にて年2回(計8回)、鉛管使用の給水栓において水質検査を実施した。
結果は、基準を上回る数値が3箇所(3回)検出された。協力者に結果を情報提供し、使用について注意を行うとともに、ポリエチレン管への取替を指導した。
- 4 広報やいづ6月号に掲載するとともに、給水装置工事申込時に鉛製給水管が残置する場合は、取替を推奨した。
- 5 大井川広域水道企業団の水質検査計画に基づく水質検査結果を毎月精査し、水質が適正であることを確認した。
- 6 各配水場で、毎日残留塩素を測定し、適正であることを確認した。

基本目標 2 : 水源の維持

	評価指標	R5年度目標	R5年度実績	評価
7	水源井戸の水位・水量測定	1 回/月	1 回/月	○
8	水源井戸の修繕計画の実施	3 箇所/年	100%/年	○
9	地下水利用団体の会議参加	1 回/年	1 回/年	○

7 稼働中の水源井戸について、静水位、動水位の測定を毎月実施し、大きな変化がないことを確認した。

8 水源井戸（2箇所）の電気設備改修を債務負担にて契約締結し、R6に実施する。

9 大井川地区地下水利用対策協議会の会議に参加し、地下水に異常が無いことを確認した。

3-1-2. 強靱



基本方針：災害に強い水道の構築

基本目標 1：施設の更新



実現施策	計画的な水道施設の更新	計画的な水源井戸の更新	自然災害対策
重点実行計画	点検・修繕の実施、老朽化施設の計画的な更新	老朽化した水源井戸の計画的な更新	<ul style="list-style-type: none"> ・浸水区域にある水道施設の対策 ・土砂災害危険区域にある高台施設の対策

基本目標 2：管路の耐震化

実現施策	基幹管路の耐震化	重給管路の耐震化	給水管の耐震化
重点実行計画	基幹管路の優先的な耐震化	重要給水施設管路の優先的な耐震化	民間工事への給水管耐震化の働きかけ

基本目標 3：危機管理対策の強化

実現施策	マニュアルの精査	システムの活用	応急給水・応急復旧体制の確保	停電対策
重点実行計画	事業環境の変化に応じた定期的な見直し	システム導入による施設情報の管理	応急給水や応急復旧用資器材の確保 災害時を想定した防災訓練の継続実施	発電機(レンタル)の手配・手続き方法の確立

基本目標 1 : 施設の更新

	評価指標	R5年度目標		R5年度実績		評価
10	水道施設の修繕計画の実施	100	%/年	100	%/年	○
11	老朽化した水源井戸の更新箇所数	8箇所	/10年	8箇所	/10年	○
12	浸水想定区域内施設の対策	1箇所	/10年	1箇所		○
13	土砂災害区域内施設の対策	1箇所	/10年	1箇所		○

10 祢宜島配水場の配水ポンプ、計装設備の修繕等が予定どおり完了した。

11 水源井戸（2箇所）の設計業務委託を実施した。

12 六軒屋配水場の浸水対策として効果的な水運用の検討が完了した。

13 坂本加圧ポンプ所の設計方針の検討が完了した。

基本目標 2 : 管路の耐震化

	評価指標	R5年度目標		R5年度実績		評価
14	基幹管路の耐震管率 (水道配水用ポリエチレン管を耐震管延長に含む)	42.1	%	43.9	%	○
15	重要給水施設管路の耐震管率	43.3	%	42.1	%	×
16	対象給水管のうち耐震継手の使用率 (対象給水管は、給水装置工事の申請のあったもの)	100	%	100%		○

14 基幹管路L=1.21kmについて、更新を行い、目標値以上の耐震化率を達成した。

15 耐震管率は目標値を下回ったが、更新管路のルートを最短ルートに見直す等、3箇所の避難施設までの水道管路を耐震化することができた。

16 令和3年度以降は、全ての申請で耐震継手を使用していることを確認した。

基本目標 3 : 危機管理対策の強化

	評価指標	R5年度目標	R5年度実績	評価
17	危機管理対策マニュアルの見直し	1回/年	1回/年	○
18	上水道地図情報システムのデータ更新	1回/年	1回/年	○
19	近隣3市での資材リストの更新・共有	1回/年	1回/年	○
20	災害対策訓練実施回数	3回/年	14回/年	○
21	燃料備蓄日数	2日	2日	○
22	レンタル発電機の手配・手続き方法の確立	-	-	-

- 17 災害応急計画の東海地震に関する発表時に関する部分の修正を行うと伴に、風水害に関するマニュアルを「津波・大津波警報、特別警報発表時」に変更した。また、危機管理マニュアル内の文言を修正した。
- 18 令和5年度に実施した工事・修繕により、地図情報システムのデータ更新を行った。
- 19 日水協中部地方支部会員のR5資機材リストより、近隣市の資機材リストを更新した。
- 20 年間14回実施した。
- ・大井川広域水道企業団防災訓練（1回）
 - ・大井川広域水道企業団防災無線訓練（6回）
 - ・日本水道協会合同防災訓練（1回）
 - ・シェイクアウト訓練（1回）
 - ・水道事業防災訓練（1回） ほか
- 21 毎月、発電機の試運転時に在庫確認を行い、燃料備蓄が2日分となるようにした。
- 22 令和2年度完了

3-1-3. 持続



基本方針：未来につながる健全な事業経営

基本目標 1：経営基盤の強化



実現施策	財政計画に基づく財源確保	有効率の向上	適正な資産管理	人材の育成と技術継承
重点実行計画	財政計画に基づく適切な財源の確保	配水管更新（予防）、漏水箇所の修理（対処）	アセットマネジメントの精度向上	<ul style="list-style-type: none"> 業務マニュアルの整備、外部・内部研修の実施、先進事業者からの技術支援 再任用職員から次世代職員への技術継承

基本目標 2：業務の効率化

実現施策	業務効率化	台帳整備の効率化	個別委託発注区分の検討
重点実行計画	<ul style="list-style-type: none"> 事務の効率化の調査・研究 発注業務の効率化の検討 	システム活用による水道施設台帳の一元化	個別委託発注区分の検討（運転管理業務などのより効率的な契約内容の検討）

基本目標 3：

お客さまとのコミュニケーションの推進

実現施策	多角的（戦略的）な広報の実施	意見・要望の把握
重点実行計画	<ul style="list-style-type: none"> 施設見学会の実施 経営状況、事業実施状況の情報公開 水質検査結果の公表、おいしい水のPR 	お客さまアンケートの実施

基本目標 4：

環境に配慮した事業の運営

実現施策	省エネルギー化の推進	資源の有効利用の推進
重点実行計画	<ul style="list-style-type: none"> 高効率機器の導入 省エネ活動の継続、省エネ機器の導入 水源井戸の水量調整方法の見直し 	資源の有効活用の推進

基本目標 1 : 経営基盤の強化

	評価指標	R5年度目標	R5年度実績		評価
23	経常収支比率	100 %以上	113.06	%	○
24	内部留保資金	10 億円以上	15.5	億円	○
25	給水収益に対する企業債残高の割合	400 %以下	294.69	%	○
26	水道料金の見直し	2 回/10年	2	回/10年	○
27	有効率	94.1 %	92.8	%	×
28	水道施設台帳の更新	1 回/年	1	回/年	○
29	業務マニュアルの見直し、更新	1 回/年	1	回/年	○
30	外部研修受講回数	1 回/人・年	1.22	回/人・年	○
31	内部研修受講回数	1 回/人・年	1.18	回/人・年	○
32	再任用職員を活用した技術指導	毎年実施	1回/年以上実施		○

23 財政計画の計画値109.65%と実績値113.06%の比較 +3.41ポイント

(令和4年度類似団体平均値 109.99%、全国平均値 108.70%)

24 財政計画の計画値12.5億円と実績値15.5億円の比較 +3.0億円

25 財政計画の計画値286.06%と実績値294.69%の比較 +8.63ポイント

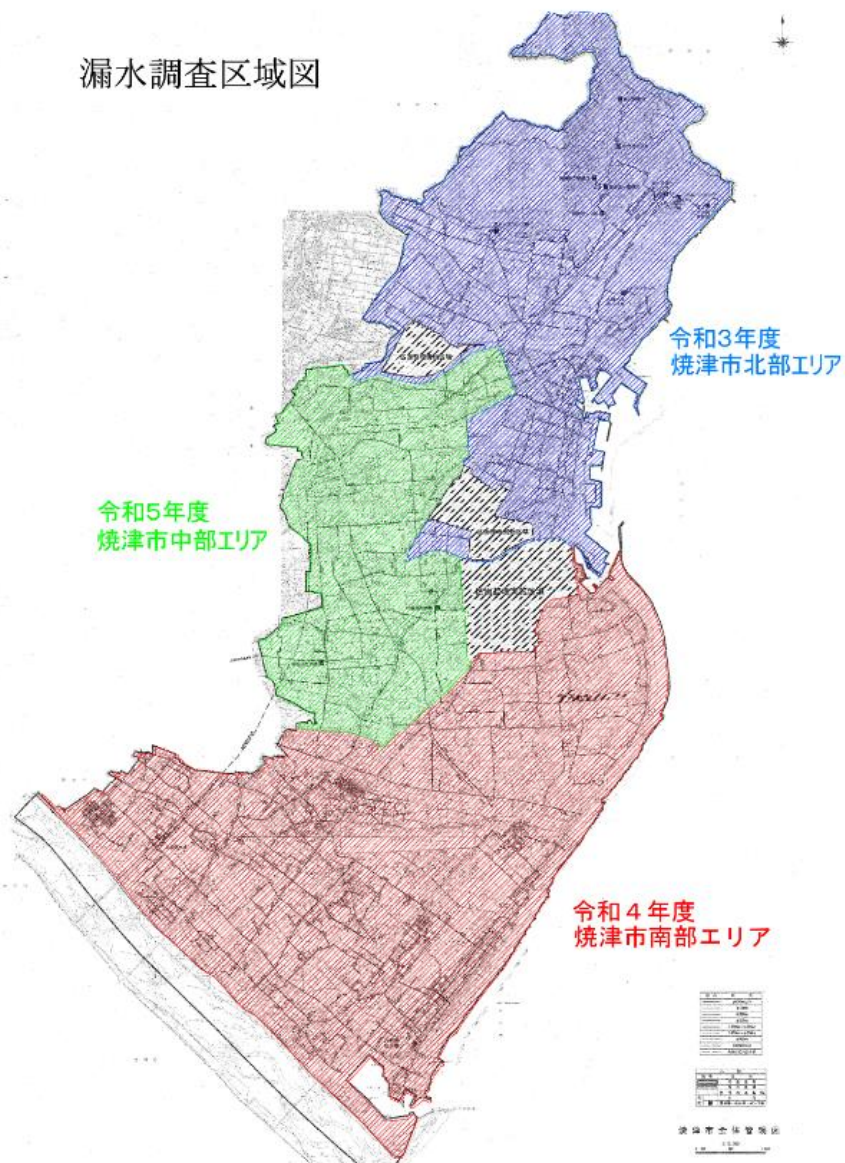
(令和4年度類似団体平均値 238.77%、全国平均値 268.07%)

27 中部地区の水道管118kmについて、漏水調査を実施し、20箇所の漏水箇所を発見した。
また、市民からの通報箇所を含め、配水管7箇所、給水管76箇所の漏水修繕を実施した。

30 外部研修に1人1回以上参加した(延べ参加回数33回)。

32 担当会議や現場確認時等に、技術指導を行った。

漏水調査区域図



漏水調査と老朽管更新工事

平成30年度から、市内を北部、中部、南部の3地区に分け、3年間で市内全域の調査を完了する漏水調査を開始。

令和5年度は、中部エリアの調査を実施しました。

引き続き、漏水箇所の修繕のほか、計画的な老朽管の更新により、有効率向上に努めていきます。

老朽管更新工事



基本目標 2 : 業務の効率化

	評価指標	R5年度目標	R5年度実績	評価
33	近隣市町との情報交換会	1 回/年	6 回/年	○
34	業務効率化の検討会	1 回/年	2 回/年	○
35	水道施設台帳の一元化	-	-	-
36	個別委託発注区分の検討	R2~3検討 R4確立	R5完了	○

- 33 書面開催となった三市上水道事業意見交換会に参加した。
大井川圏域で危機管理についてマニュアルの見直しなどを検討した。
近隣5事業体で指定工事店更新講習を情報交換しながら開催した。
- 34 給水台帳、配水管管網図閲覧の電子申請について、検討を進めた。
- 35 令和2年度完了（以降、毎年データ更新）
- 36 委託区分の統合による運転管理業務委託の発注が完了した。

基本目標 3 : お客さまとのコミュニケーションの推進

	評価指標	R5年度目標	R5年度実績	評価
37	施設見学会の実施	1 回/年	4 回/年	○
38	決算書の公表	1 回/年	1 回/年	○
39	事業計画の進捗状況の公表	1 回/5年	-	-
40	水質検査結果の公表	1 回/月	1 回/月	○
41	お客さまアンケートの実施	1 回/年	1 回/年	○

37 8月4日に親子施設見学会を実施した。また、小中学校の社会見学を受け入れた。

38 9月議会議決後、令和4年度水道事業会計決算について、決算書本編及び概要版を水道事業ホームページで公表した。

39 水道ビジョン・経営戦略2020に係る令和4年度（計画3年目）のフォローアップを実施し、令和5年度の目標を設定した。フォローアップの結果を検証委員会に報告した。

40 水質検査結果を水道ホームページで公表（毎月更新）した。

41 8月4日の親子施設見学会で実施した。

基本目標 4 : 環境に配慮した事業の運営

	評価指標	R5年度目標		R5年度実績		評価
42	配水量1m ³ 当たり電力消費量	0.26	kWh/m ³ 以下	0.26	kWh/m³	○
43	配水量1m ³ 当たり消費エネルギー	2.60	MJ/m ³ 以下(※)	2.55	MJ/m³	○
44	水源井戸水量調整方法の見直し	検証 1回/年		検証1	回/年	○
45	建設副産物リサイクル率	70.0	%以上	—	—	—

※MJ・・・megajoule(メガジュール) 仕事・エネルギー・熱量の単位。1MJ=0.278kWh
 エネルギーを熱量として換算するときはMJ、電力量として換算するときはkWhの単位を使う。

42 電力使用量の合計 (kWh) /年間配水量 (m³)
 $4,893,994 \div 19,217,056 = 0.255 \text{kWh/m}^3$

43 エネルギー消費量 (MJ) /年間配水量 (m³)
 $48,910,420 \text{MJ} \div 19,217,056 \text{m}^3 = 2.55 \text{MJ/m}^3$

44 水源井戸水量調整方法の検証を行い、インバータによる可変速調整とした。

45 静岡県盛土等の規制に関する条例により、発生土の受入れが制限されており、土質改良土の確保ができないため、評価ができなかったが、その他の建設副産物の再生資源化率は98.3%であった。

3-2.投資計画及び財政計画の進捗状況

3-2-1.投資計画

①施設、管路の更新・耐震化計画

(資本的支出(税込),百万円)

施設名	2020		2021		2022		2023		2024	2025	2026	2027	2028	2029	計		
	R2		R3		R4		R5		R6	R7	R8	R9	R10	R11	計		
	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	計画	計画	計画	実績	
施設 ・ 設備	中新田系水源井戸更新	12	14	0	0	0	0	69	17	63	67	64	63	0	75	413	31
	中新田配水場施設更新	0	0	0	4	0	0	0	0	0	5	0	192	0	0	197	4
	祢宜島系水源井戸更新	7	5	69	13	62	0	0	16	9	0	6	6	0	0	159	34
	祢宜島配水場施設更新	0	5	14	0	8	5	0	25	107	0	75	0	386	580	1,170	35
	上泉系水源井戸更新	66	57	0	0	0	0	0	0	6	6	0	0	61	0	139	57
	上泉配水場施設更新	0	0	0	0	0	0	0	0	0	57	43	0	0	0	100	0
	六軒屋系水源井戸更新	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	0
	六軒屋配水場施設更新	0	0	0	0	203	18	308	0	0	0	0	0	0	0	511	18
	高台施設更新	17	13	18	31	113	9	14	13	69	115	67	85	11	0	509	66
管 路	管路更新・耐震化	1,021	826	1,352	1,237	1,012	1,316	923	1,303	1,286	1,323	1,100	1,279	1,019	925	11,240	4,682
	他事業関連管路整備	90	77	56	24	56	46	57	25	57	57	57	57	57	57	601	172
(施設費：備品類)		21	3	21	16	21	9	22	5	22	22	22	22	22	22	217	33
建設改良費 合計		1,234	1,000	1,530	1,325	1,475	1,403	1,393	1,404	1,619	1,652	1,434	1,704	1,559	1,659	15,259	5,132
		▲ 234		▲ 205		▲ 72		11									

計画額との差額の説明は以下のとおり。

- ・前期計画中に更新予定であった水源井戸の工事（更新予定4箇所中2箇所更新済み）は、後期計画にて計画しています。
- ・六軒屋配水場施設更新は、負担軽減策を後期計画で計画しています。

②施設の長寿命化に伴う点検・修繕計画

(収益的支出(税抜),百万円)

施設名	2020		2021		2022		2023		2024	2025	2026	2027	2028	2029	計		
	R2		R3		R4		R5		R6	R7	R8	R9	R10	R11	計		
	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	計画	計画	計画	実績	
長 寿 命 化 分	中新田系水源井戸点検・修繕	0	0	0	0	0	0	3	0	0	9	0	0	0	0	12	0
	上泉系水源井戸点検・修繕	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	3	0	0	0	5	1
	中新田配水場設備点検・修繕	8	8	5	6	32	6	32	0	13	8	43	1	1	24	167	20
	祢宜島配水場設備及び水道庁舎点検・修繕	50	68	2	11	14	4	8	11	2	10	2	11	3	15	117	94
	上泉配水場設備点検・修繕	13	14	12	13	0	0	2	9	2	21	3	0	0	3	56	36
	六軒屋配水場設備点検・修繕	0	1	3	1	2	0	21	0	10	0	0	0	0	0	36	2
	計	71	91	22	31	48	10	66	21	29	48	51	12	4	42	393	153
修繕費(上記以外)	112	75	67	82	67	77	67	66	68	69	68	69	68	68	723	300	
修繕費 合計	183	166	89	113	115	87	133	87	97	117	119	81	72	110	1,116	453	
	▲ 17		24		▲ 28		▲ 46										

施設の長寿命化に伴う点検・修繕計画については、点検結果に基づき経年劣化した設備の修繕を行い、施設の機能維持を図った。

③管路更新・耐震化計画に基づく耐震管率の推移

(km)

耐震管率の指標		2020		2021		2022		2023		2024	2025	2026	2027	2028	2029
		R2		R3		R4		R5		R6	R7	R8	R9	R10	R11
		計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	計画	計画
基幹管路の耐震管率	耐震管	15.2	17.4	16.9	19.45	18.0	20.46	19.2	21.35	21.9	23.8	26.0	27.5	29.7	31.9
	延長	46.9	48.7	46.4	49.0	45.5	48.1	45.6	48.6	45.9	45.3	45.1	45.0	44.7	44.7
	耐震管率	32.4%	35.7%	36.4%	39.7%	39.6%	42.6%	42.1%	43.9%	47.7%	52.5%	57.6%	61.1%	66.4%	71.4%
重要給水施設管路の耐震管率	耐震管	14.7	14.7	17.3	17.3	18.5	19.2	21.3	20.7	23.6	27.1	30.0	31.5	33.9	36.2
	延長	49.2	49.2	49.2	49.2	49.2	49.2	49.2	49.2	49.2	49.2	49.2	49.2	49.2	49.2
	耐震管率	29.9%	29.9%	35.2%	35.2%	37.6%	39.0%	43.3%	42.1%	48.0%	55.1%	61.0%	64.0%	68.9%	73.6%

基幹管路の耐震管率は計画を上回っているが、重要給水施設管路の耐震管率は、目標を下回った。

投資計画のまとめ

施設の更新は、水需要に沿った投資計画の見直しを行う予定。

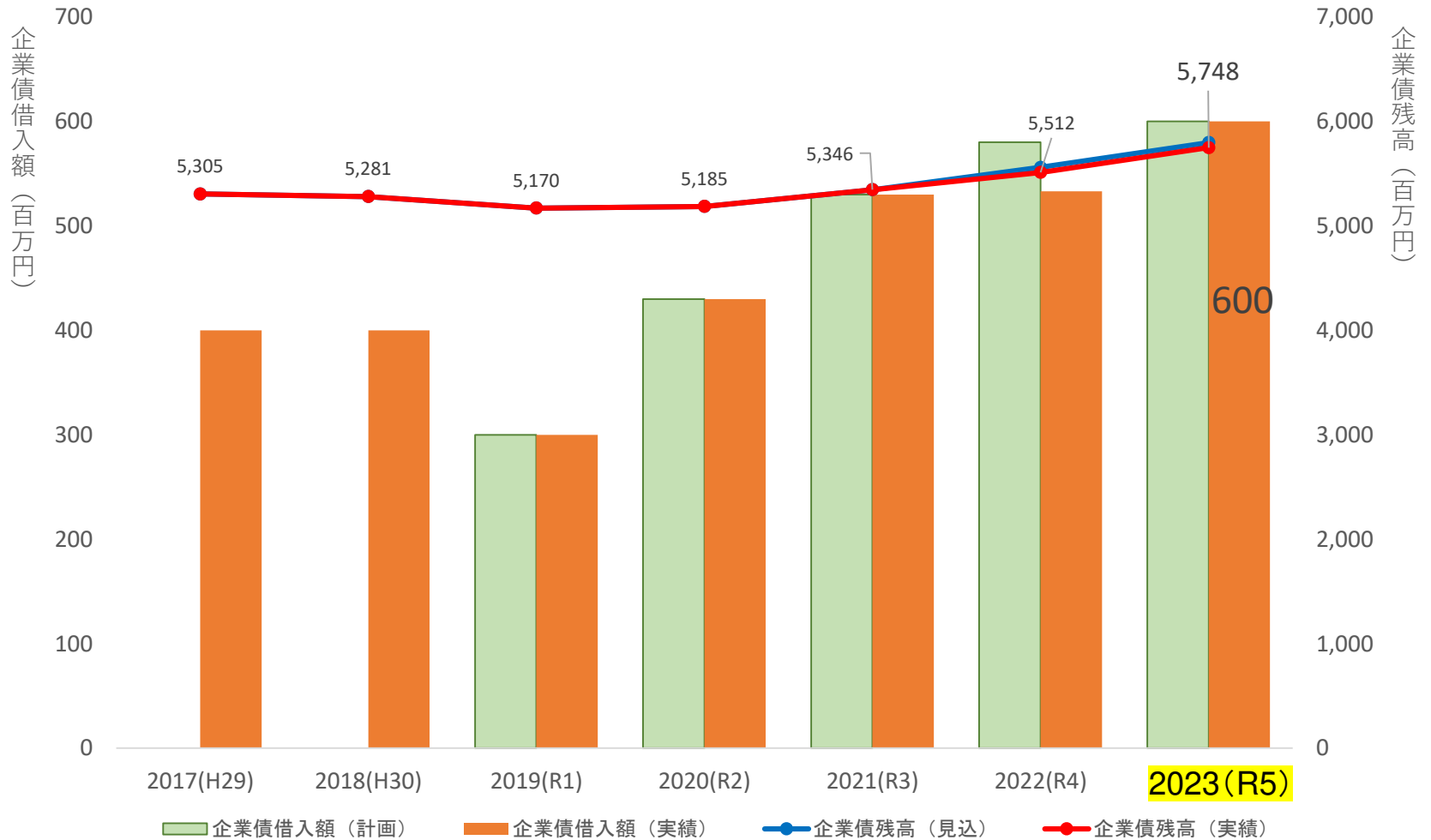
管路の更新は、資材調達の期間確保や週休二日制の導入で、工期が伸びているため、工事費が計画よりも増加している。管路の耐震化を進めるため、投資額の見直しを行う予定。

3-2-2.財政計画

項目		単位	2022 (R4)			2023 (R5)			
			計画	決算	比率	計画	決算	比率	
収益的収入	収益的収入	営業収益	千円	2,055,094	1,974,318	96.1	2,047,438	1,964,172	95.9
		給水収益	千円	2,034,463	1,961,543	96.4	2,026,807	1,950,687	96.2
		受託工事収益	千円	17,600	10,008	56.9	17,600	10,467	59.5
		その他営業収益	千円	3,031	2,767	91.3	3,031	3,018	99.6
		営業外収益	千円	143,873	145,054	100.8	139,483	152,913	109.6
		他会計補助金等	千円	5,453	5,945	109.0	5,453	152,913	109.6
		長期前受金戻入	千円	123,757	124,122	100.3	119,367	121,525	101.8
		その他営業外収益	千円	14,663	14,987	102.2	14,663	17,425	118.8
		特別利益	千円	-	-	-	-	222,423	-
		計(税抜)	千円	2,198,967	2,119,372	96.4	2,186,921	2,339,508	107.0
	収益的支出	営業費用	千円	1,973,370	1,826,945	92.6	1,937,716	1,810,819	93.5
		給与費	千円	196,136	173,634	88.5	196,328	154,541	78.7
		動力費	千円	85,058	122,712	144.3	84,648	95,268	112.5
		受水費	千円	370,000	367,631	99.4	370,000	368,583	99.6
		委託料	千円	258,779	249,588	96.4	261,108	250,820	96.1
		修繕費	千円	115,145	87,318	75.8	133,264	87,046	65.3
		減価償却費等	千円	903,148	772,874	85.6	846,870	799,605	94.4
		一般管理費	千円	45,104	53,188	117.9	45,498	54,956	108.8
		営業外費用	千円	61,136	61,438	100.5	56,784	61,773	108.8
支払利息		千円	60,001	60,427	100.7	55,639	60,057	107.9	
その他支出	千円	1,135	1,011	89.1	1,145	1,716	149.9		
計(税抜)	千円	2,034,506	1,888,383	92.8	1,994,500	1,872,592	93.9		
当期純利益		千円	164,461	230,989	140.5	192,421	466,916	242.7	
資本的収入(税込)	資本的収入	企業債	千円	580,000	533,100	91.9	600,000	600,000	100.0
		工事負担金	千円	50,299	26,104	51.9	50,752	15,960	31.4
		その他資本的収入	千円	0	0	-	0	0	-
		計(税込)	千円	630,299	559,204	88.7	650,752	616,017	94.7
	資本的支出	建設改良費	千円	1,475,283	1,403,373	95.1	1,392,529	1,403,845	100.8
		企業債償還金	千円	365,769	366,869	100.3	362,483	363,359	100.2
		計(税込)	千円	1,841,052	1,770,242	96.2	1,755,012	1,767,304	100.7
	資本的収支不足額		千円	▲ 1,210,753	▲ 1,211,038	100.0	▲ 1,104,260	▲ 1,151,287	104.3
	補填財	消費税資本的収支調整額	千円	119,961	109,483	91.3	112,943	119,061	105.4
		損益勘定留保資金	千円	711,391	649,098	91.2	727,503	678,563	93.3
利益剰余金処分別		千円	379,401	452,457	119.3	263,814	353,663	134.1	
内部留保資金	利益剰余金	千円	1,251,598	2,001,727	159.9	1,180,598	2,016,186	170.8	
	減債積立金	千円	-	463,115	-	-	475,115	-	
	建設改良積立金	千円	-	855,166	-	-	720,492	-	
	繰越(未処分)利益剰余金	千円	-	683,446	-	-	820,579	-	
企業債残高		千円	5,560,423	5,511,806	99.1	5,797,940	5,748,448	99.1	

①企業債の活用

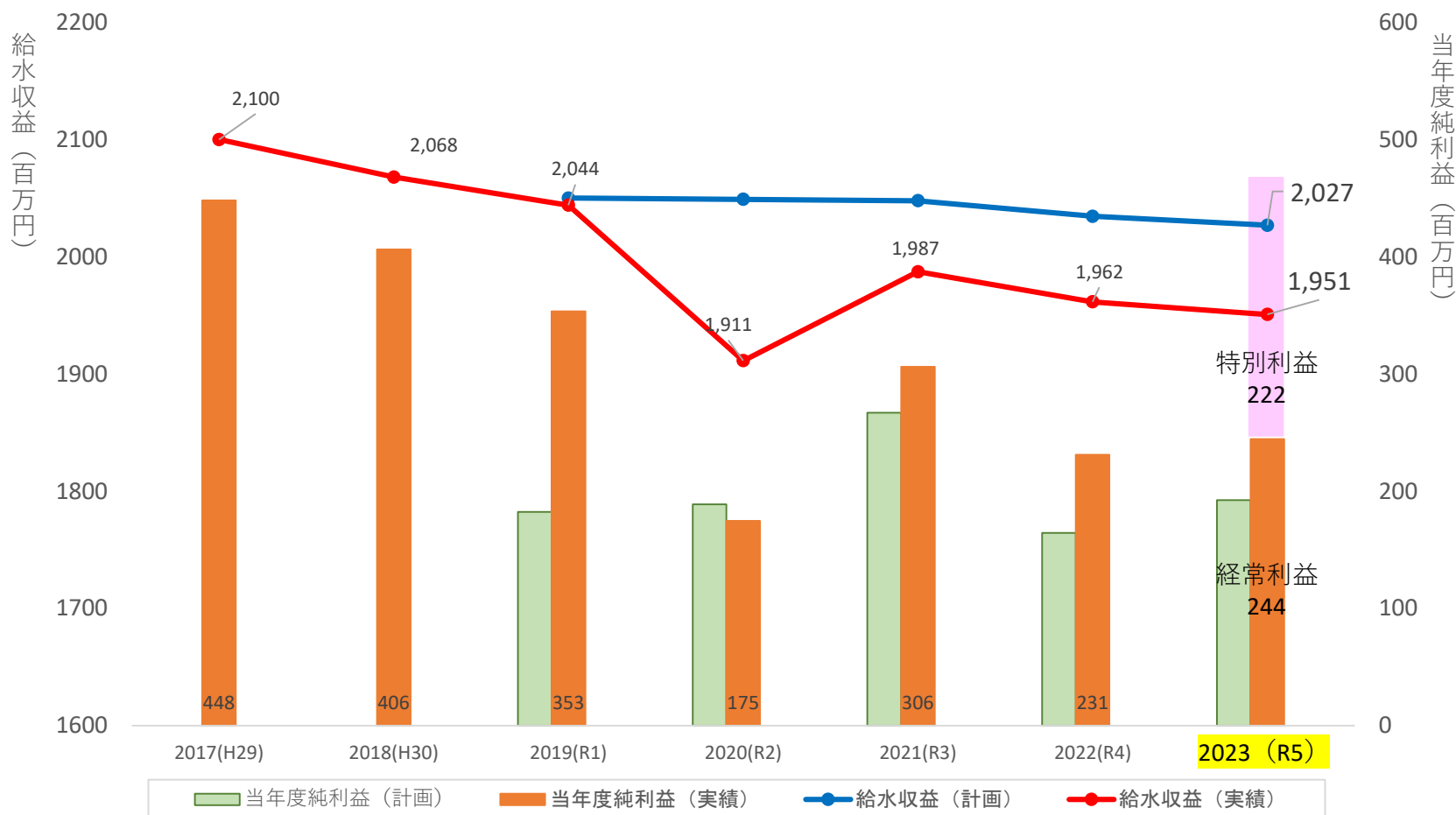
企業債借入額と企業債残高



企業債借入額及び企業債残高は、計画どおりである。

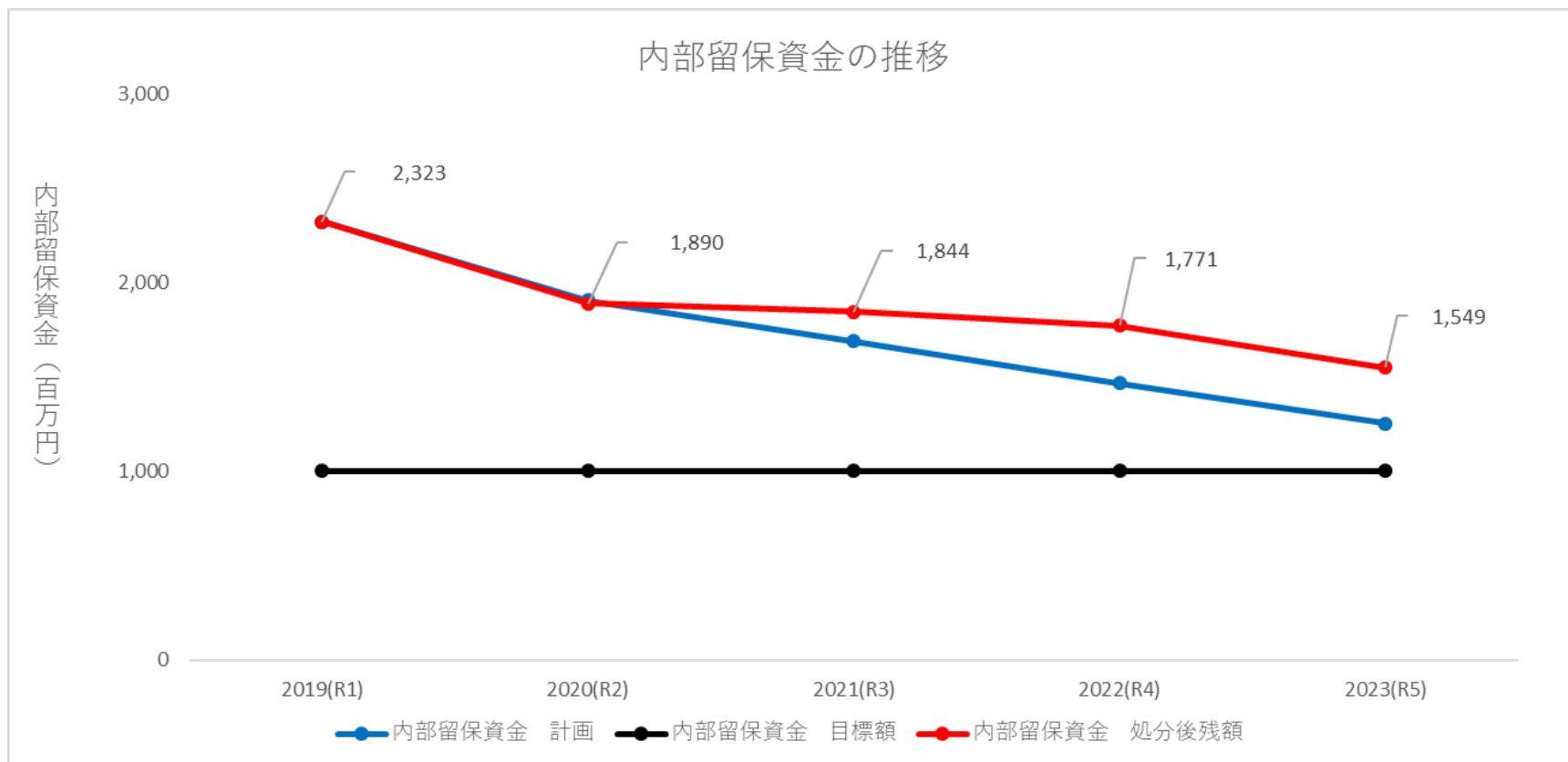
②健全な収支バランスの維持

給水収益と当年度純利益



- ・ 給水収益は、給水人口の減少などにより、計画を7,600万円程度下回った。
- ・ 一方、当年度純利益は、特別利益を計上したため、計画を2億7,600万円程度上回った。
- ・ 特別利益を除いた経常利益は、2億4,400万円であった。

③内部留保資金目標額の確保



内部留保資金は、計画額を上回っています。

財政計画のまとめ

財政収支のバランスが保たれており、健全な経営が持続されていると考えられる。

3-3.令和5年度目標達成状況のまとめ

重点実行計画の達成状況

- ・ 評価対象41項目のうち、未達成の項目は2つ（重要給水施設の耐震管率、有効率）。引き続き、老朽化対策及び漏水防止を図るための老朽管の更新や漏水調査・修繕を実施し、目標達成に努める。

投資・財政計画の進捗状況

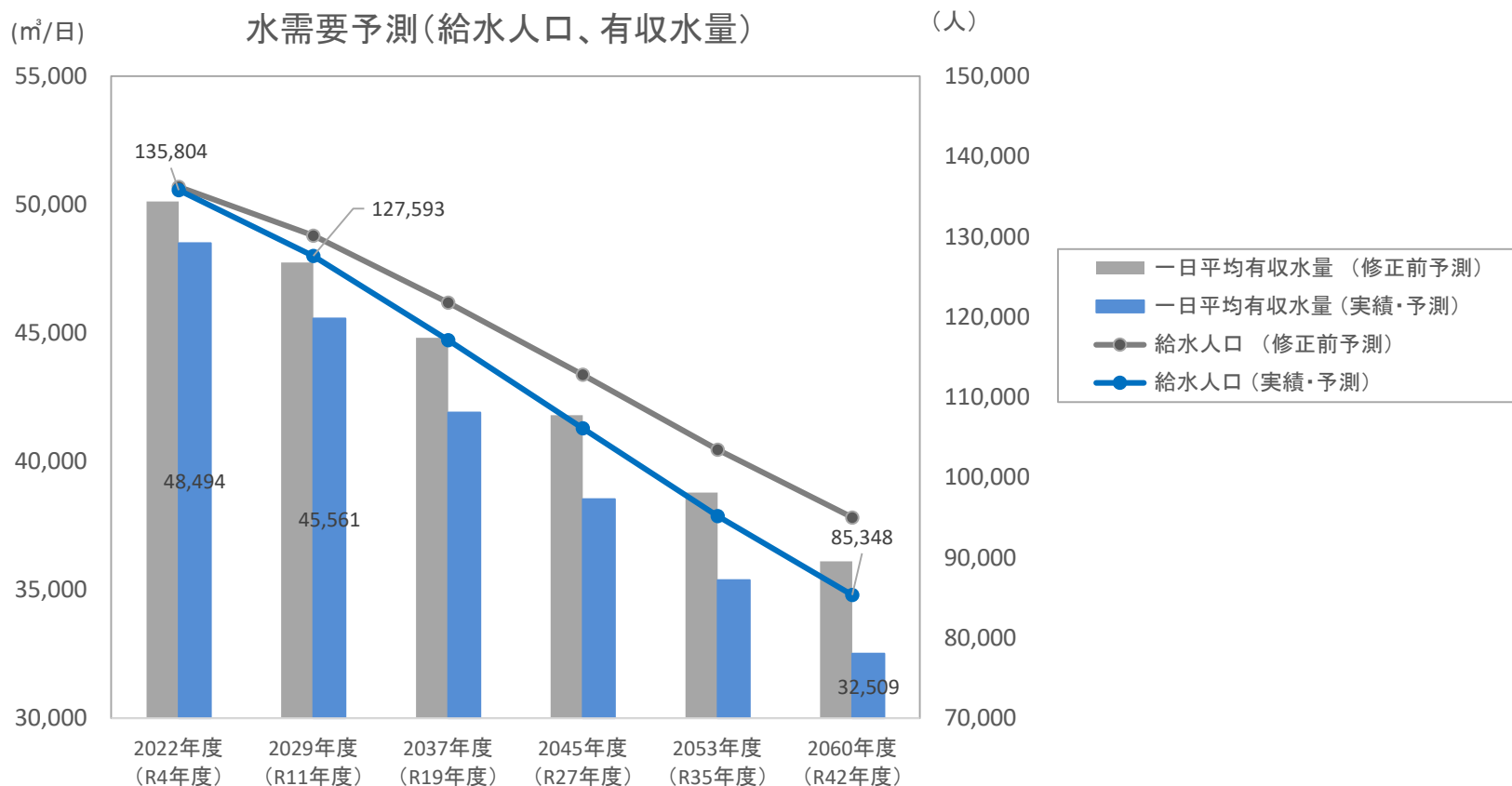
- ・ 投資計画の進捗は、重要給水施設管路の耐震管率は、目標に届かなかったが、概ね計画に沿った投資が行われている。
- ・ 財政計画の進捗は、財政収支のバランスは保たれており、健全な経営が持続されている。

4. 後期計画の見直し方針

4-1. 水道事業を取り巻く動向

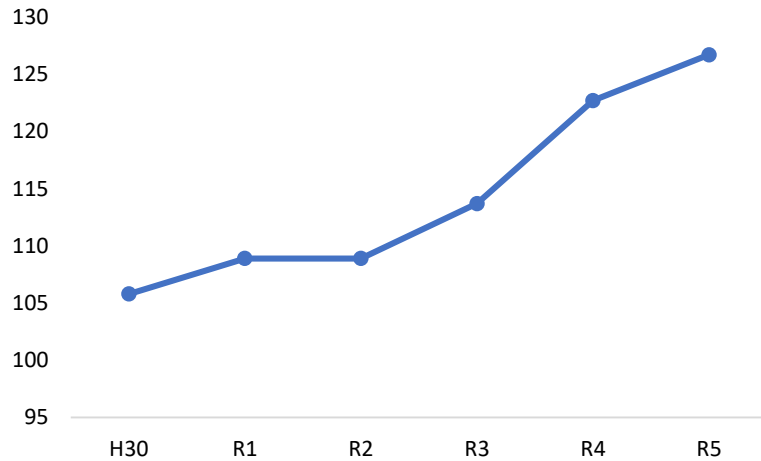
給水収益の減少に伴う水需要予測の修正

- ・ 計画の策定時よりも水需要の減少が進んでいるため、水需要予測を修正しました。

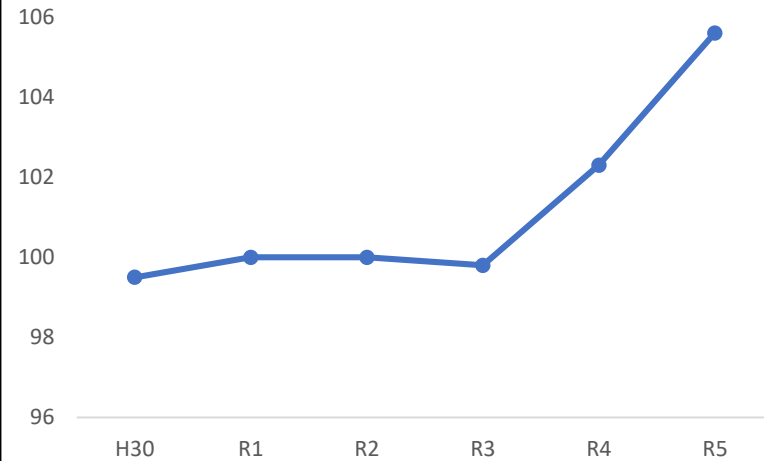


工事費や経費の増加

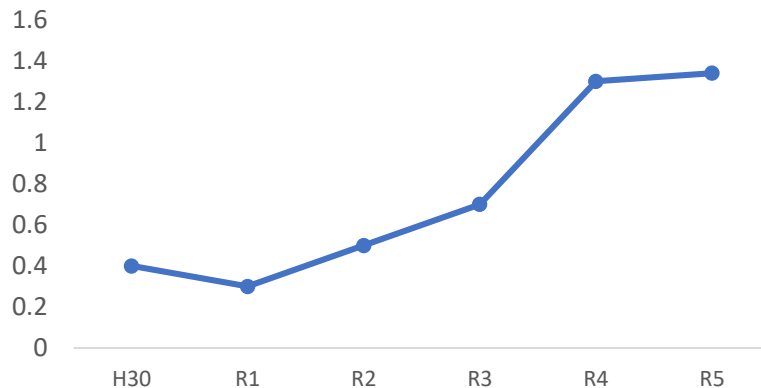
建設工事費デフレーター



消費者物価指数



企業債利息の実績



建設工事費デフレーター、消費者物価指数、企業債利息など、建設改良費や経費にかかる指標がいずれも上昇しています。

4-2.見直しを行う項目

目標値に対する達成状況や、物価高騰などの社会経済情勢の変化を踏まえ、主に、(1)水需要予測の修正、(2)投資・財政計画の見直しを行う。

(1)水需要予測の修正

給水人口、給水量及び有収水量等の計画値と実績値に乖離がみられること、給水収益が継続的に計画を下回っていることから、上位計画の人口推計を反映させ、実績を踏まえて有収水量等を補正することにより、水需要予測を修正する。

(2)投資・財政計画の見直し

【投資計画】

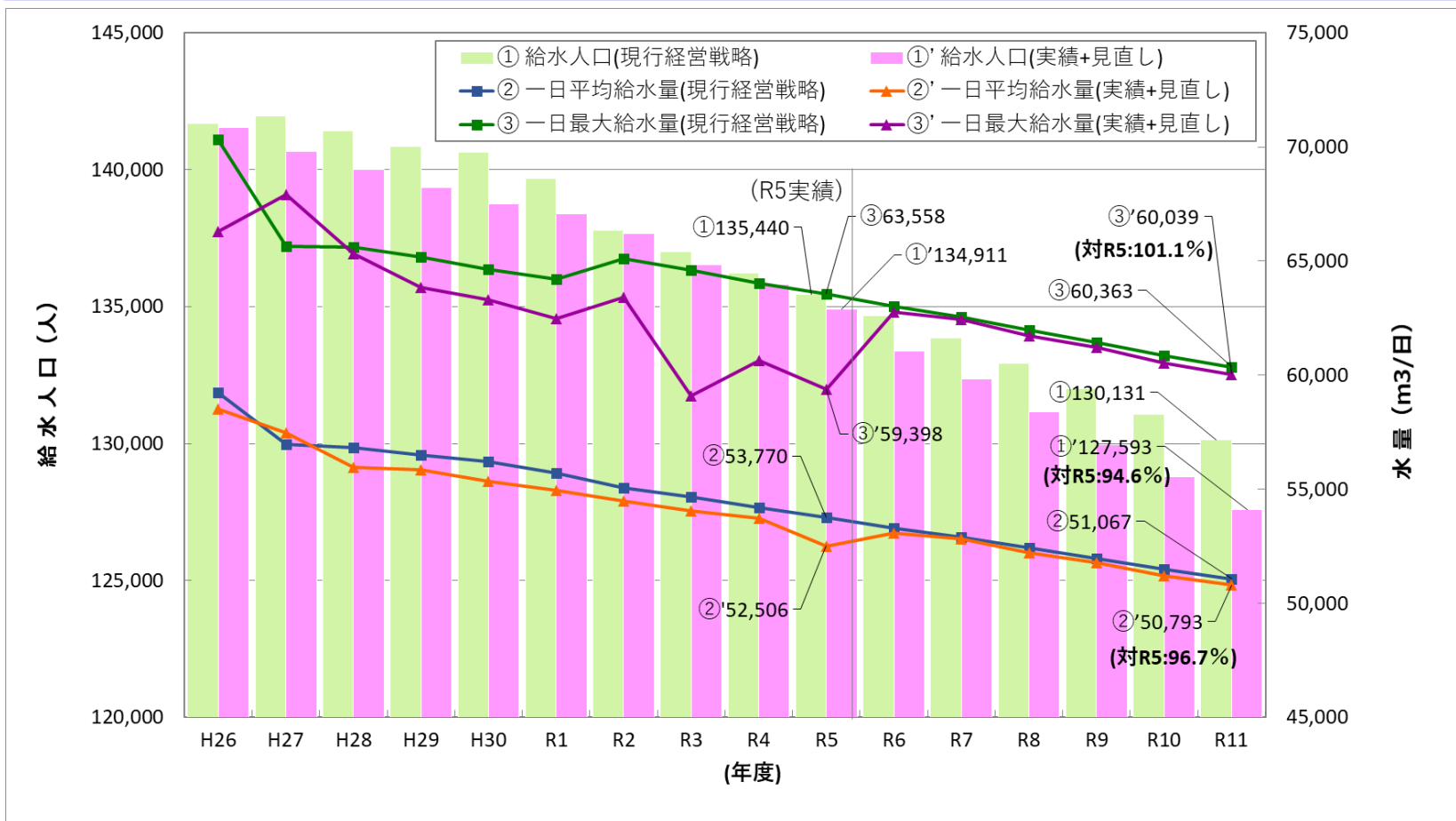
- ・工事計画及び投資額の見直しを行う。

【財政計画】

- ・水需要予測の修正に伴い、給水収益の予測を修正する。
- ・工事費や費用の高騰、企業債利率の上昇など前期計画策定後の社会経済情勢の変化を反映させる。
- ・長期的に投資と財政が均衡するよう、料金改定や企業債充当率、資産維持費のシミュレーションを行い、試算、調整する。

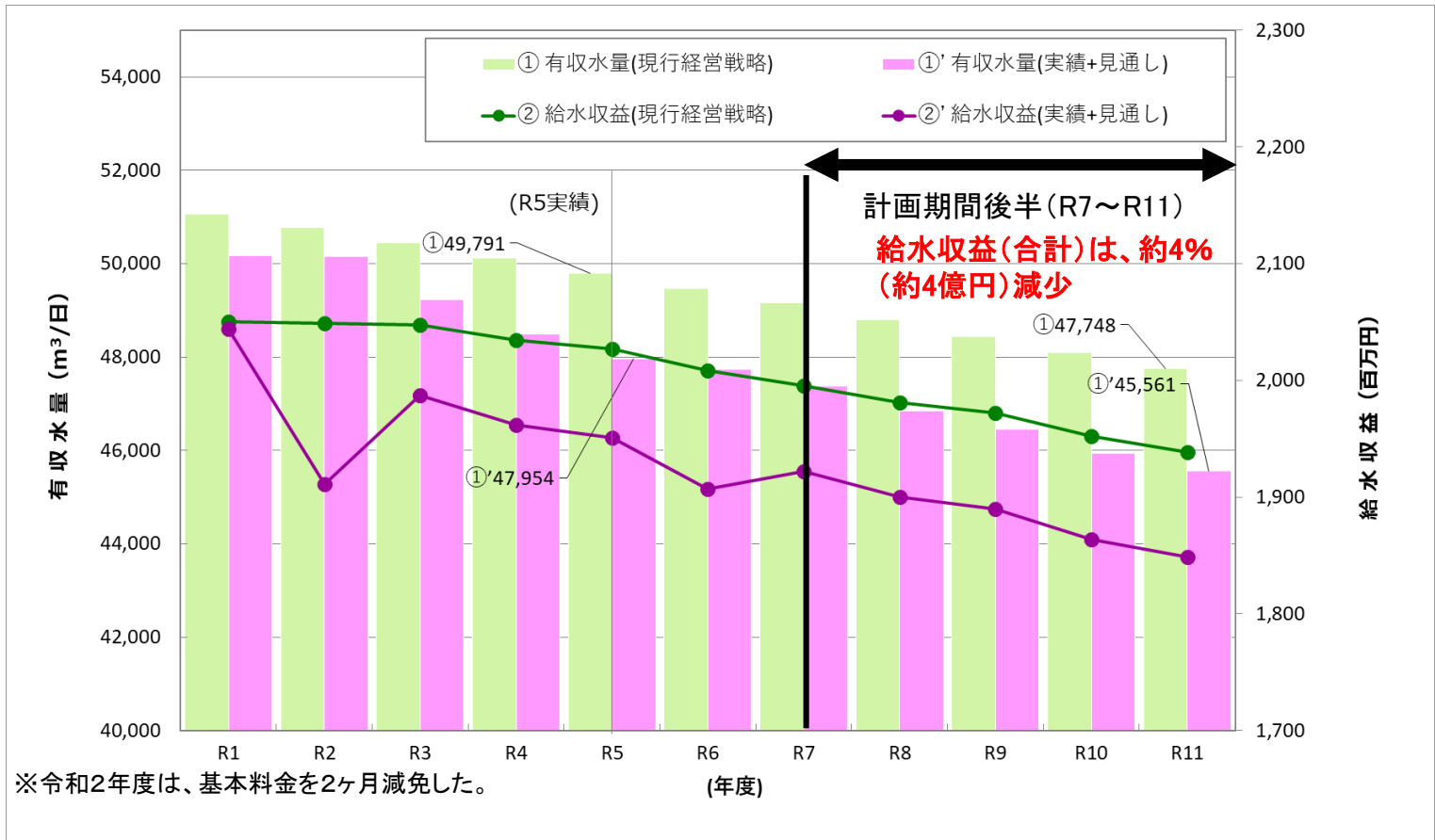
5.投資財政計画の見通し

給水人口、一日平均給水量、一日最大給水量の推移



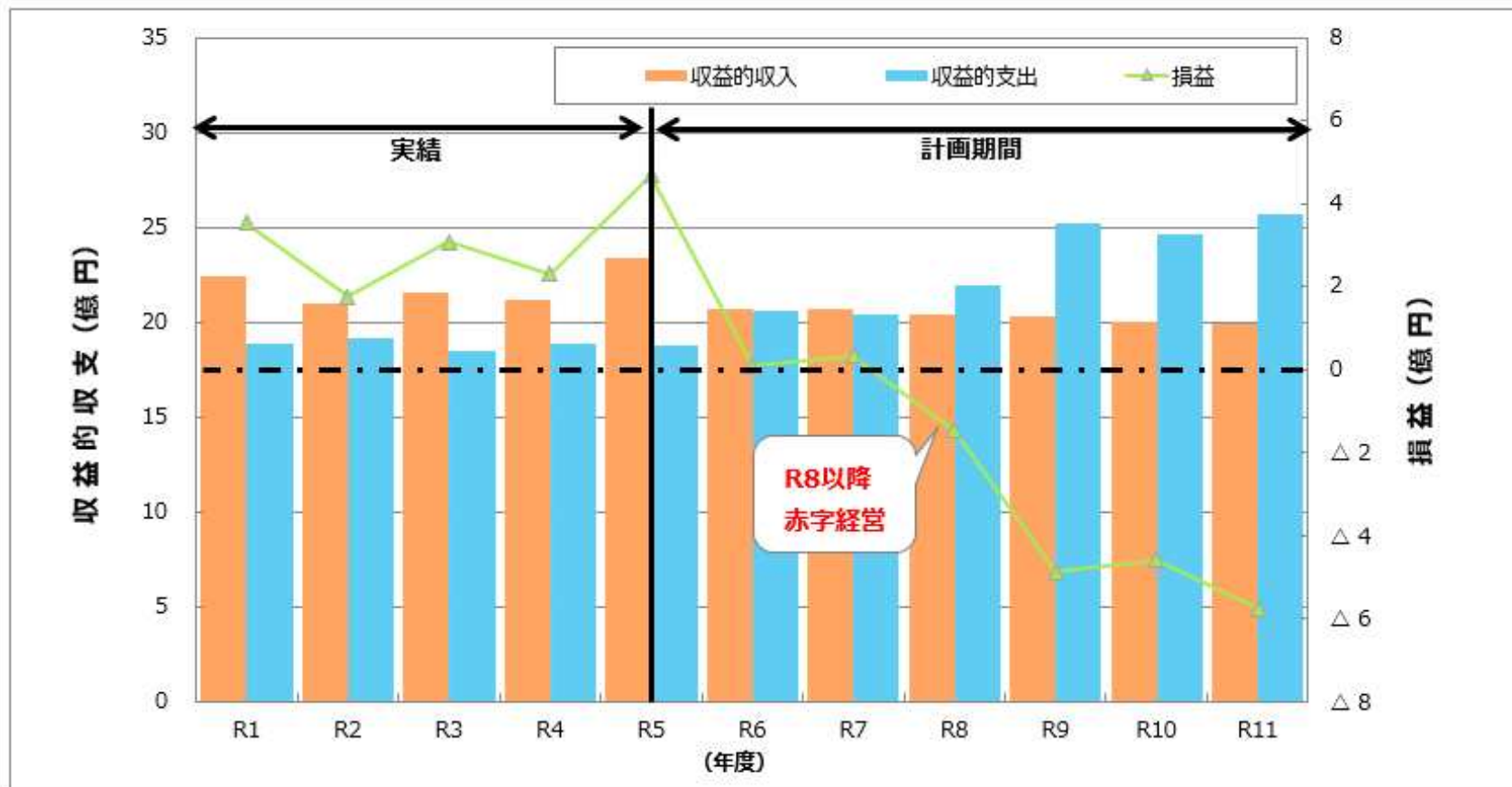
水需要予測の見直しにより、給水人口及び給水量は減少する見込みであり、施設の適正な規模を検討する必要があります。

有収水量及び給水収益の推移



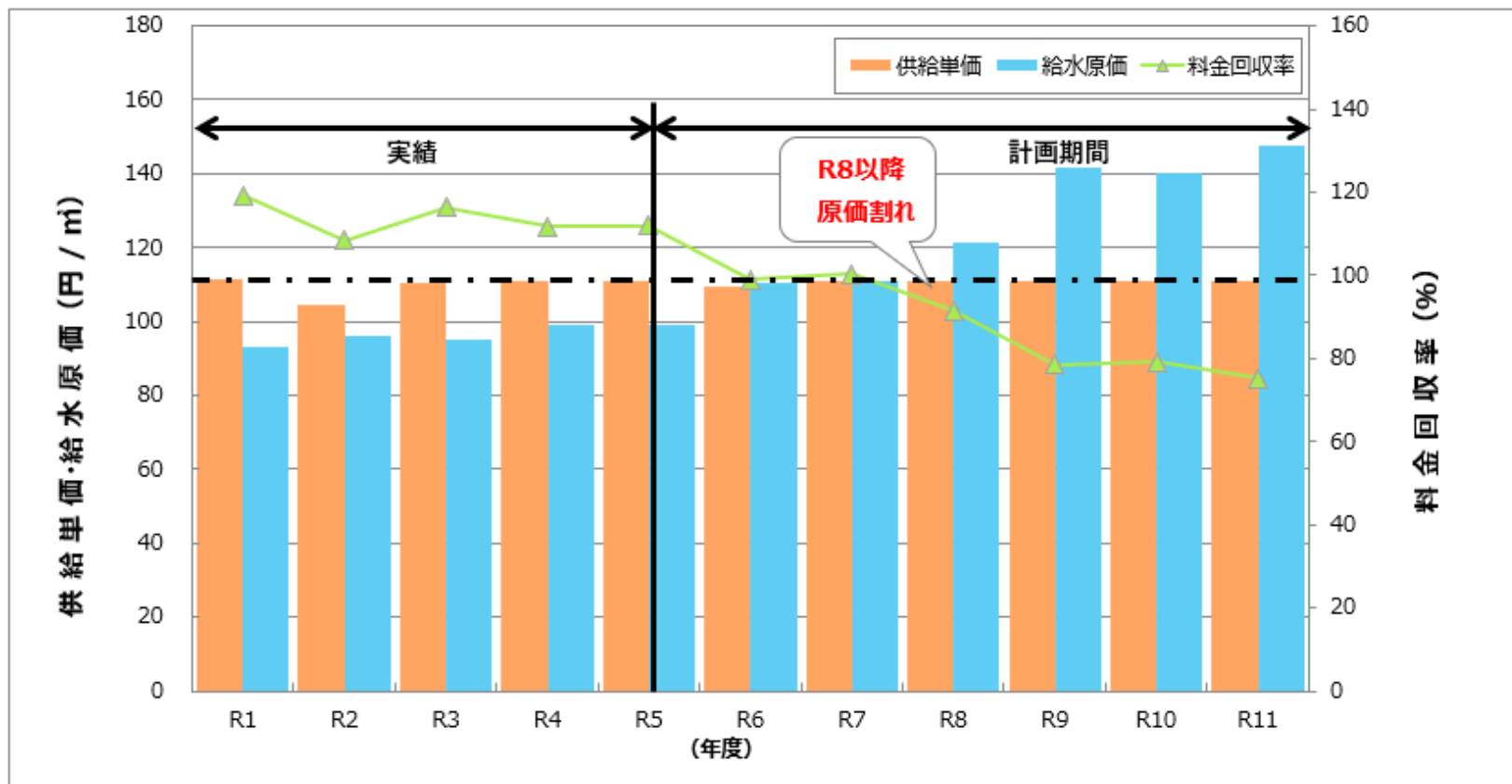
水需要予測の見直しにより、有収水量はなだらかに減少する見込みです。有収水量の減少に伴い、計画期間後半(R7~R11)における給水収益は、現行経営戦略と比較し、約4%(約4億円)減少します。

収益的収支の見通し



給水収益の減少及び原材料費・人件費の上昇や減価償却費の増加等による費用の増加に伴い、料金改定を行わない場合は、R8以降は赤字となる見込みです。

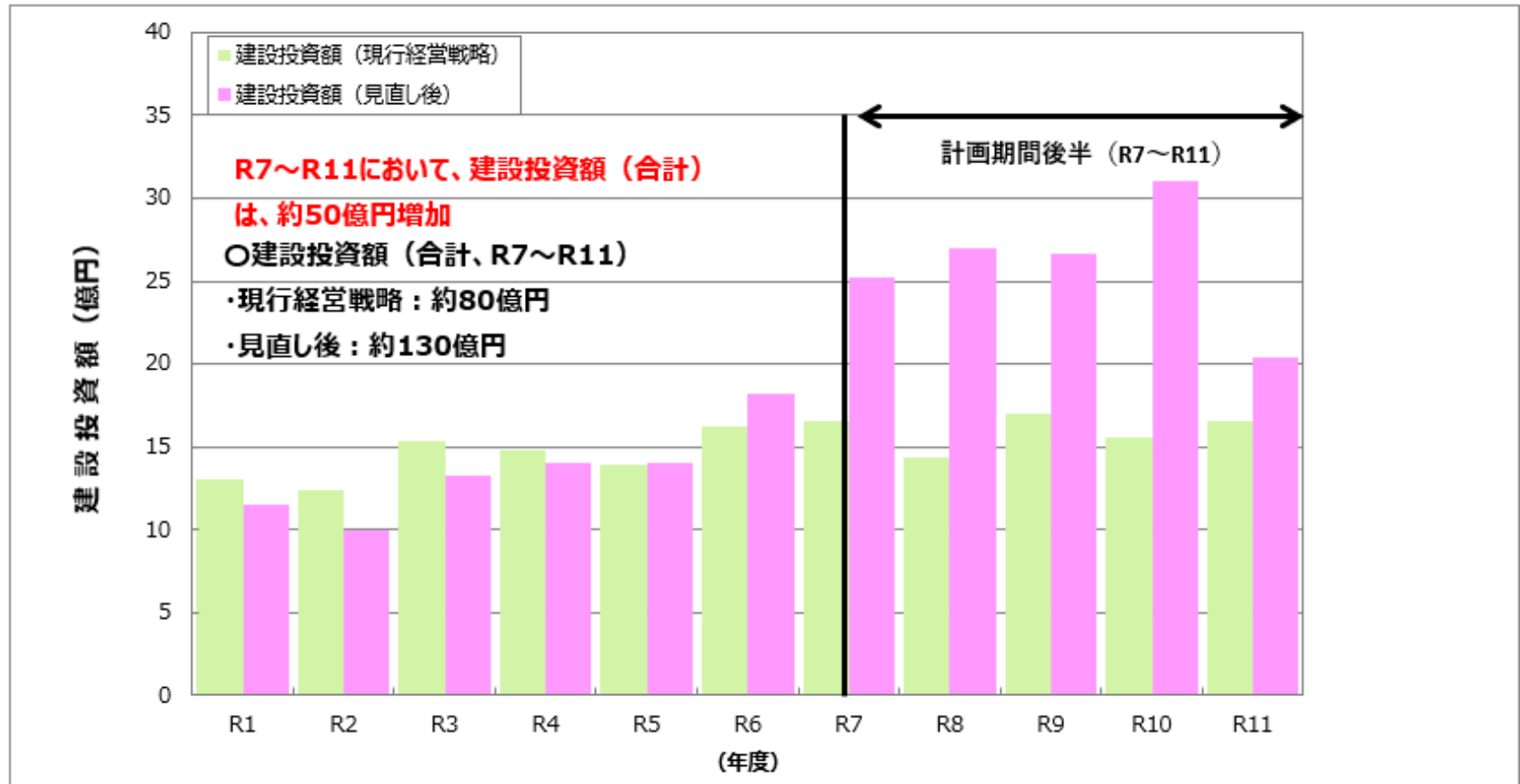
供給単価、給水原価及び料金回収率の見通し



令和7年度までは水道料金で給水にかかる費用を賄えますが、令和8年度以降は原価割れにより、費用を賄えなくなる見込みです。

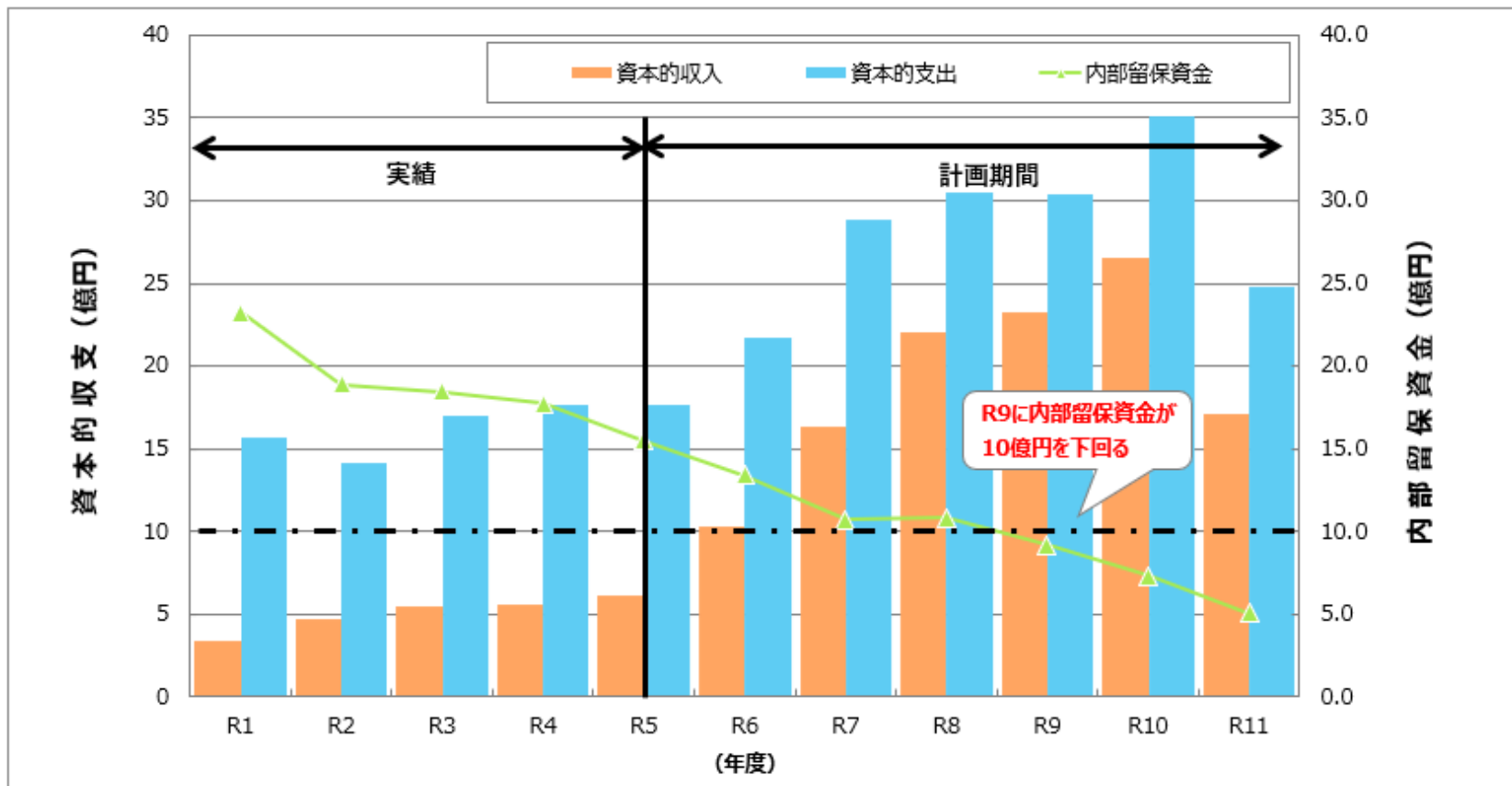
- ・供給単価: 水道水1m³当たりの販売単価
- ・給水原価: 水道水1m³当たりの製造原価
- ・料金回収率: 供給単価 / 給水原価

建設投資額の見通し



近年の物価高騰の影響等により、建設投資額が増加しています。引き続き、管路の耐震化を進めていくには、計画期間後半(令和7年度～令和11年度)における建設投資額(合計)は、現行経営戦略と比較し、約50億円増加する見込みです。

資本的収支及び内部留保資金の見通し



建設投資額の増加により、令和9年度に内部留保資金は10億円を下回る見込みです。

健全な財政状況を維持していくため、今後は料金改定を検討していく必要があります。